

令和6年度 国立夜須高原青少年自然の家教育事業

筑前町合併20周年アニバーサリー事業

夜須高原ファミリーキャンプ（防災・減災キャンプ）

【実施報告】

1. 趣 旨 日本全国で災害が発生しており、防災・減災に関する知識が必要不可欠と言っても過言ではないと言える。その中で、自助、共助、公助それぞれが災害対応力を高め連携することが大切であり、被害を最小限にするためには、自分を守る自助、地域や身近な人同士が助け合う共助が大切になる。そのような状況の中で、防災・減災に関する知識を学ぶ機会は増えているものの実践する場が少ない。そのため、地域住民の方々に防災・減災に関する知識を深めるとともに、筑前町山林の現状も学び、災害時には防災・減災グッズ等を活用できるよう普及することを目的とする。

2. 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家

3. 後 援 福岡県教育委員会、筑前町教育委員会

4. 期 間 令和6年11月9日（土）～10日（日）

5. 場 所 国立夜須高原青少年自然の家（福岡県朝倉郡筑前町三箇山1103）
道の駅筑前みなみの里（福岡県朝倉郡筑前町三並866）

6. 参加者 21名（6家族）

7. 活動の様子

1) 里地里山ウォークラリー



2) 防災について考える



3) 防災クッキング



8. 感想

① プログラムに関すること

- ・身近なもので対応できることがわかった。
- ・ちょっとした工夫でできるものがあり、面白かった。
- ・知らないことが色々あり、感心しました。
- ・新聞紙でご飯を炊けることが不思議でした。
- ・新聞紙で炊くお米が美味しくて子供たちもたくさん食べていた。

② 事業全体に関すること

- ・楽しく学習することができた。
- ・参加させてもらってとてもいい経験になった。
- ・今まで（防災・減災を）考える機会がなかったので、良い機会となった。

9. 成果

本事業を通して、参加者からは「防災・減災について楽しく学ぶことができた」や防災・減災について「今まで考える機会がなかったので良い機会となった」などの意見が挙げられており、防災・減災について考える機会を提供できたと考えられる。

また、「防災について考える」では、災害時に活用できるグッズづくりを行った。身近な物に一工夫加えることで、災害時に役立つグッズへと代わることを知ってもらうとともに、親子で楽しみながらグッズづくりを行うことで防災・減災を難しく考えるのではなく、楽しみながらも防災・減災に対する意識を高めることができるというきっかけづくりになったと考えられる。

さらに、今回の事業で、「魔法のかまどごはん」を購入することができたため、次年度以降も様々な事業において、防災・減災の要素を含んだ事業展開を行うことができるのではないだろうか。

10. 課題

課題として、参加者の生活圏と里山の環境が大きく影響していることを理解してもらうために里地里山ウォークラリーを実施した。しかしながら、参加者に低学年が多く、参加者からも「里地里山ウォークラリーの距離が長い」との意見が挙げられた。次回、同様の事業を実施する際には、里地里山ウォークラリーのコース（歩く距離）等について検討が必要であると考えられる。

また、10家族程度の募集で考えていたが、6家族の応募であったため募集チラシなどにプログラム内容に興味を持ってもらうような工夫が必要と考えられる。